

小学生の放課後の過ごし方に関する調査レポート

特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール

2023.11.14

子どもたちが思う存分遊べる放課後をつくりたい

私たち放課後NPOアフタースクールは、安全で豊かな小学生の放課後を日本全国で実現するために活動をしています。学校施設を活用した放課後の居場所「アフタースクール」を運営し、これまでに21校の開校・運営等に携わりモデルを展開してきました。また、企業や団体と連携し、子育て・教育プロジェクトを実施するソーシャルデザイン事業も推進。これらの事業で培ったノウハウを日本全国に広げていくため、自治体と連携して放課後を豊かにする事業も本格的にスタートしています。事務所を東京都と大阪府に構え、スタッフ数350名、グッドデザイン賞4回・キッズデザイン賞5回受賞。活動に賛同くださる多くの方とともに、社会全体で子どもたちを守り、育む活動を加速させながら、子どもたちのためのより豊かな放課後の実現に向けてチャレンジを続けてきています。

一方、これまでの活動を続ける中で、かつて自由でのびやかだった放課後の変化も肌で感じました。好きなことに夢中になれる「時間」。たくさん遊び場があった「空間」。時間を忘れて一緒に遊ぶ「仲間」。現代の子どもたちは、これらの大切な3つの間を失ってきています。

日本も1994年に批准している国連「子どもの権利条約」においても、子どもの「生きる」、「育つ」、「守られる」、「参加する」という4つの権利の中の「育つ」権利として、第31条に「遊ぶ権利」が記されています。子どもたちがのびのびと過ごし、仲間と思いきり遊び、新しい挑戦や世界に出会える、そんな放課後の居場所づくりを続けてきた私たちは、子どもたちの「遊び」を取り巻く大きな社会の変化に強い課題感を持っています。

これらの問題意識のもと、放課後NPOアフタースクールでは、「世界こどもの日」に寄せて、小学生の子ども達の「遊び」に関する実態に焦点をあてた調査を、放課後という切り口を加えながら行いました。

今回の調査によって、子どもたちにとって重要な「権利」について注目が集まり、放課後環境の改善も含めたよりよい支援制度や社会の在り方について議論が進めばと考えています。



代表理事 平岩国泰

今回の調査から見えた 重要なポイント

1

76.2%の小学生が放課後に「もっと友達と遊びたい」と回答（WEB調査より）

2

放課後に友達と遊ぶのが週1回以下（週1回/ほとんどない）の小学生は70.9%となった（WEB調査より）

3

「もっと友達と遊べるようになるにはどうなるといいか」という問いに対しては「友だちの遊べる日が増える（39.1%）」がトップ、次いで「遊び場が近所にできる（35.7%）」と回答（WEB調査より）

4

放課後に思うように友達と遊べない理由を聞くと、「時間がない」「仲間がない」「空間がない」という、「3つの間」に課題があることが伺えた。また、遊び場のルールや人・環境による制約のため、思うように遊べない場合があることも伺えた。（インタビュー調査より）

対象者	小学生の子どもを持つ男女
調査期間	2023年8月10日
調査方法	インターネットアンケート調査会社のモニターを利用したWEB調査
有効回答数	302件
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・年齢、性別、職業、居住地、子どもの学年 (以下の項目を子どもに聞いて回答してもらった)・現在の放課後の過ごし方・放課後に何をして過ごしたいか・普段どこで遊んでいるか・もっと友達と遊びたいか・友達と遊べない理由・もっと友達と遊べるようにする方法

対象者 小学生（1～6年生）とその保護者

調査期間 2023年8月24日～9月20日

調査方法 対面またはオンライン（Zoom）

有効回答数

- ・個別インタビュー10回：小学生とその保護者10組
- ・グループインタビュー1回：小学生4名

調査項目 ▼小学生向け

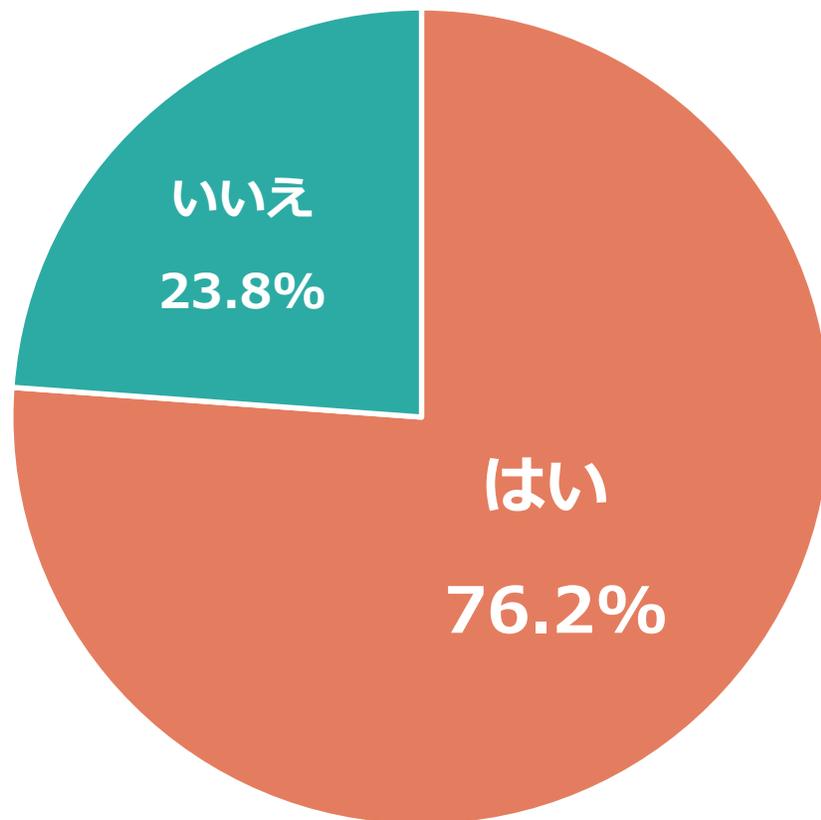
- ・学年、居住地（市区町村）きょうだいの有無、学童利用有無
- ・現在の放課後の過ごし方、普段どこで遊んでいるか
- ・放課後に何をして過ごしたいか
- ・もっと友達と遊びたいか、友達と遊べない理由、もっと友達と遊べるようにする方法

▼保護者向け

- ・保護者の就労有無、居住地域における放課後の環境・行政サービス等
- ・子どもの放課後の過ごし方について感じていること

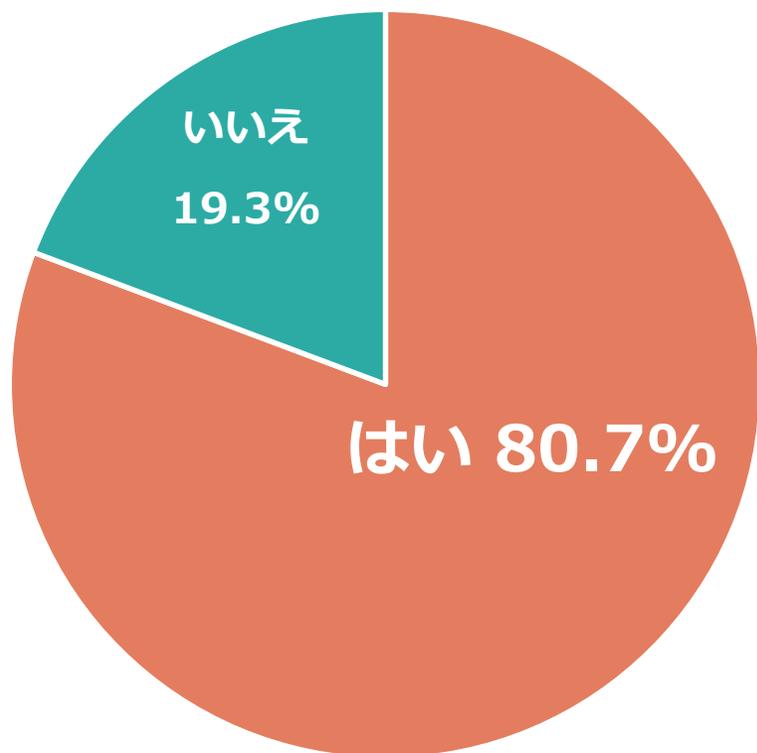
76.2%の小学生が放課後に「もっと友達と遊びたい」と回答した。

放課後にもっと遊びたいですか？(n=302)

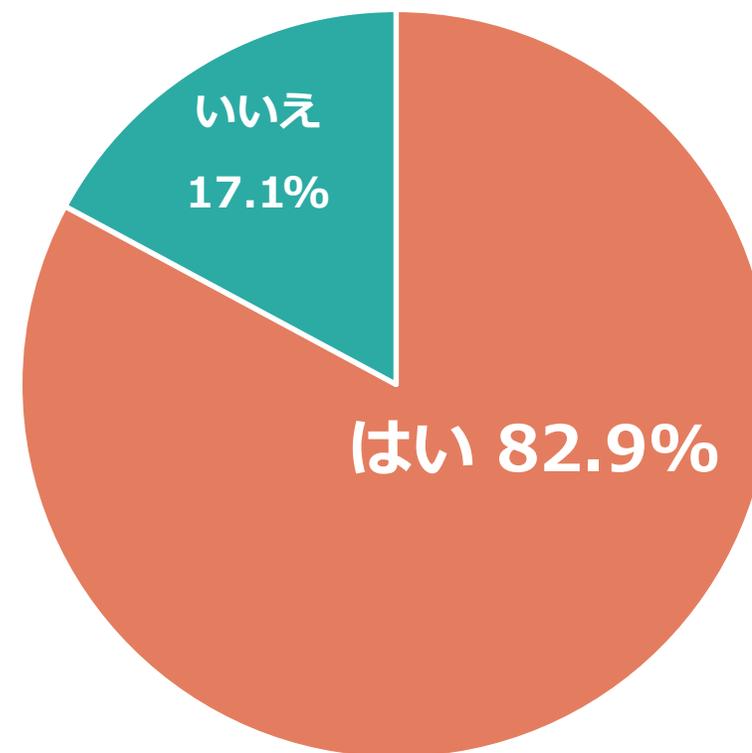


「もっと遊びたい」と回答する割合は、
高学年、都市部においてより高くなる傾向がみられた。

【高学年】放課後にもっと遊びたいですか？
(n=135)

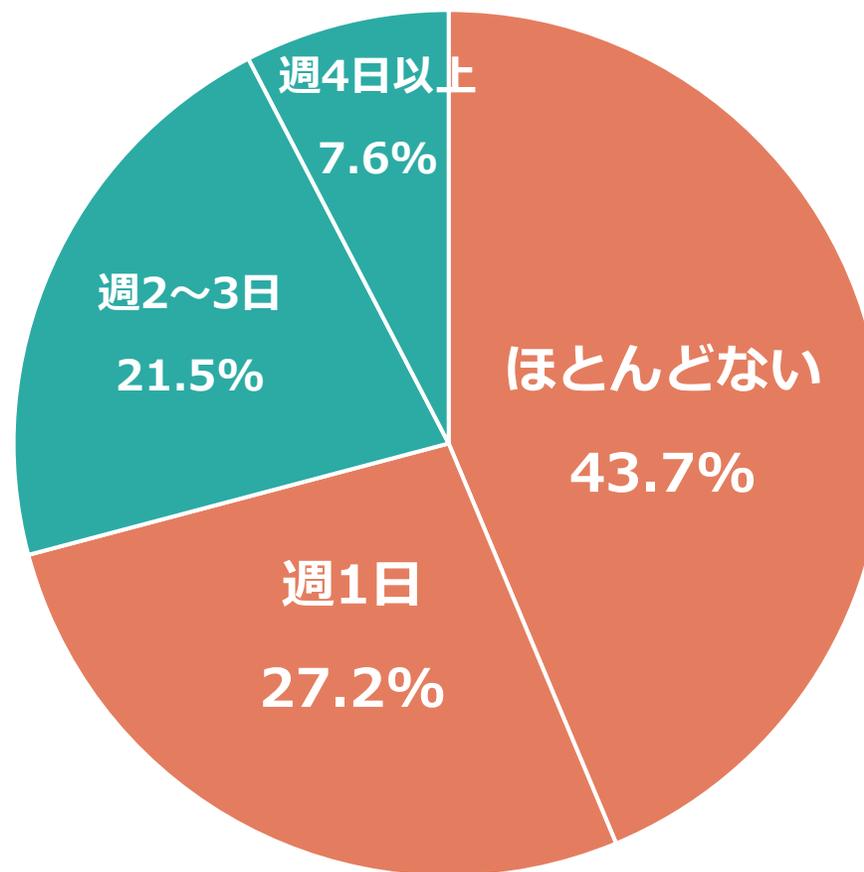


【都市部】放課後にもっと遊びたいですか？
(n=111)



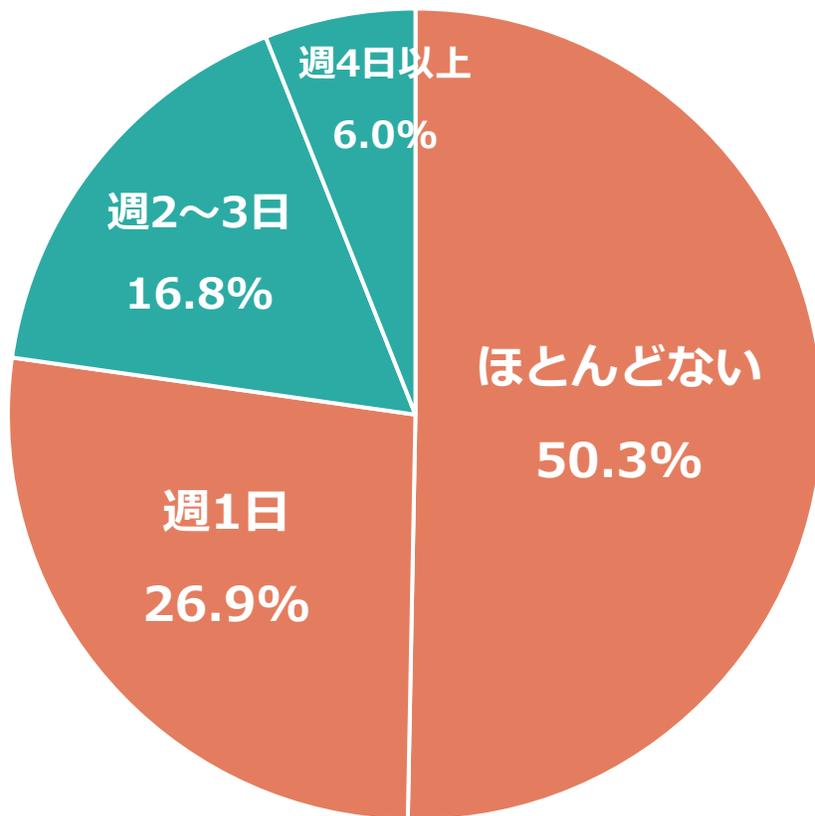
放課後に友達と遊ぶのは「週1回以下」と答えた割合は70.9%となった。

放課後にどれぐらい友達と遊んでいますか?(n=302)

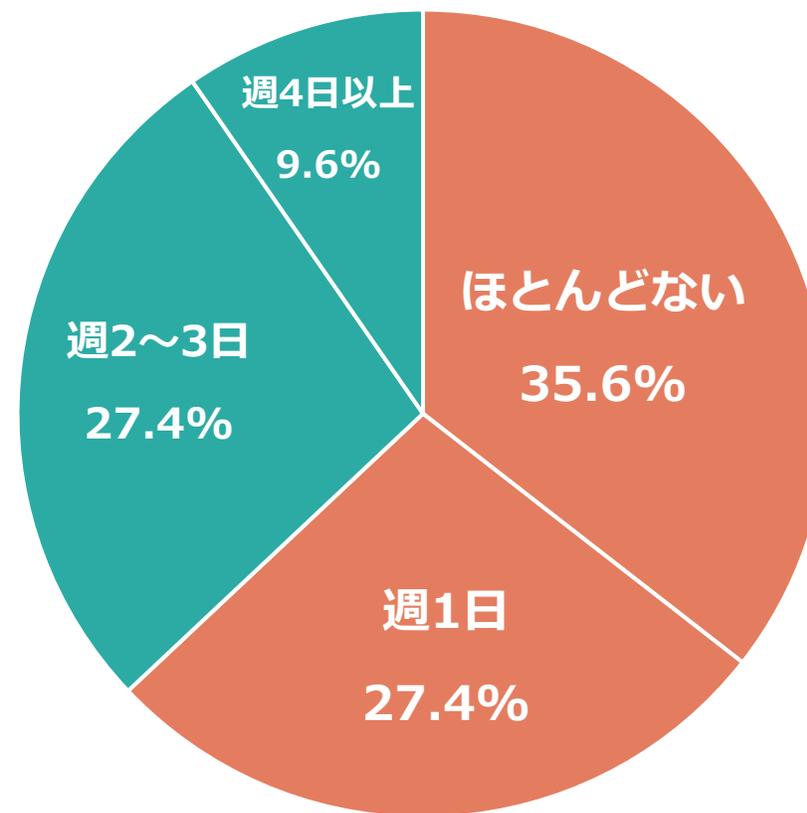


放課後に友達と遊ぶことが「ほとんどない」と答えた割合は、低学年でより高くなる傾向がみられた。

【低学年】放課後にどれぐらい友達と遊んでいますか?(n=167)

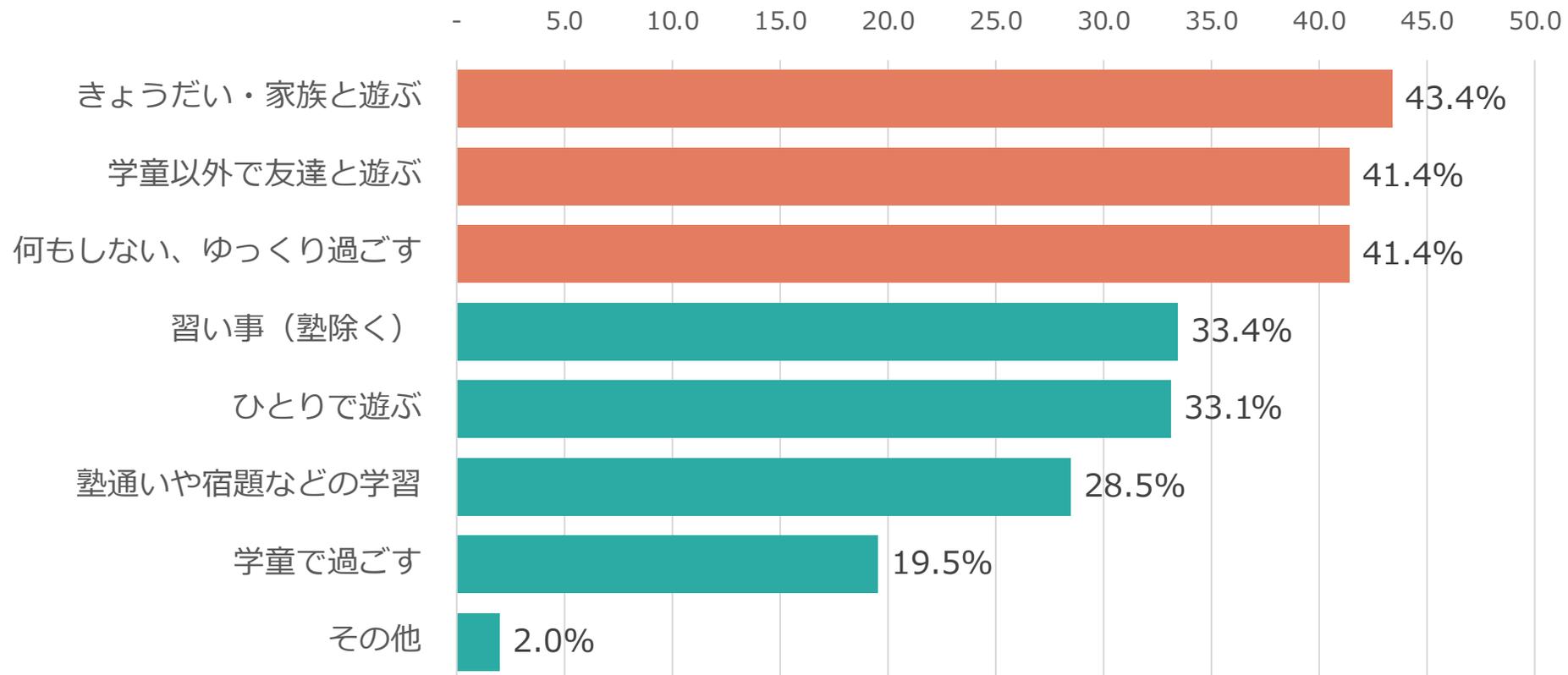


【高学年】放課後にどれぐらい友達と遊んでいますか?(n=135)



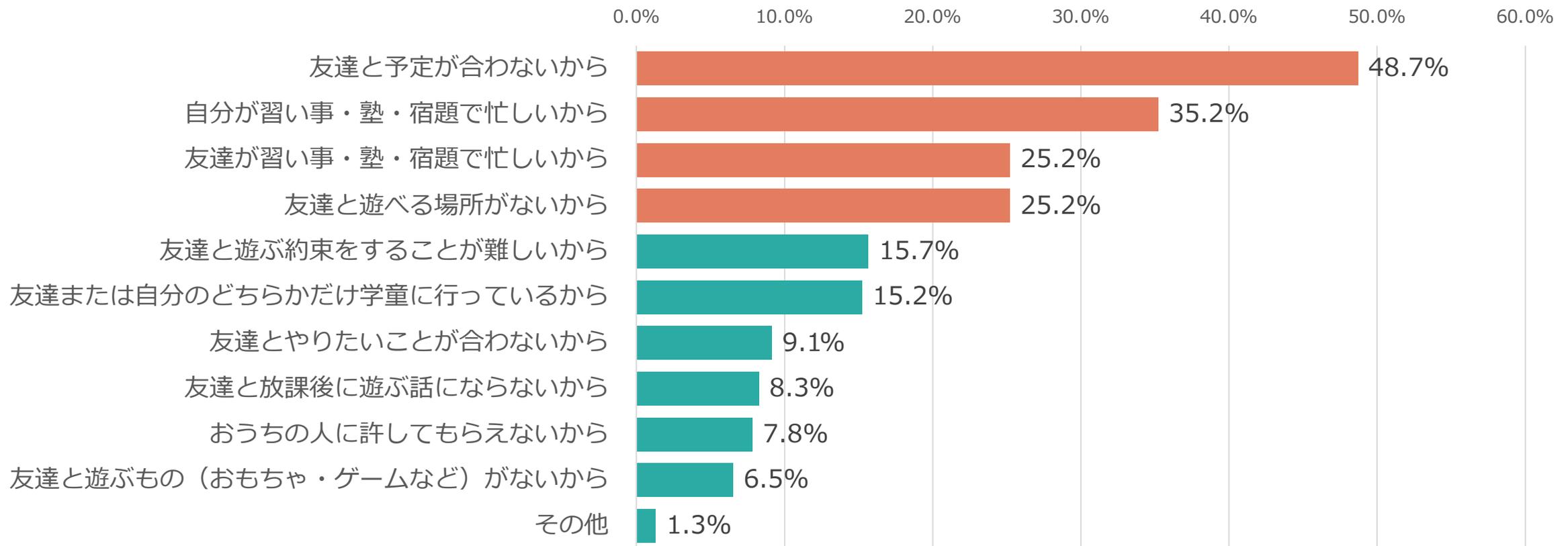
「放課後に何をして過ごしたいですか」という問いに対しては、「きょうだい・家族と遊ぶ (43.4%)」がトップ、次いで「学童以外で友達と遊ぶ (41.4%)」「何もしない、ゆっくり過ごす (41.4%)」との回答が得られた。

放課後に何をして過ごしたいですか？ (n=302)



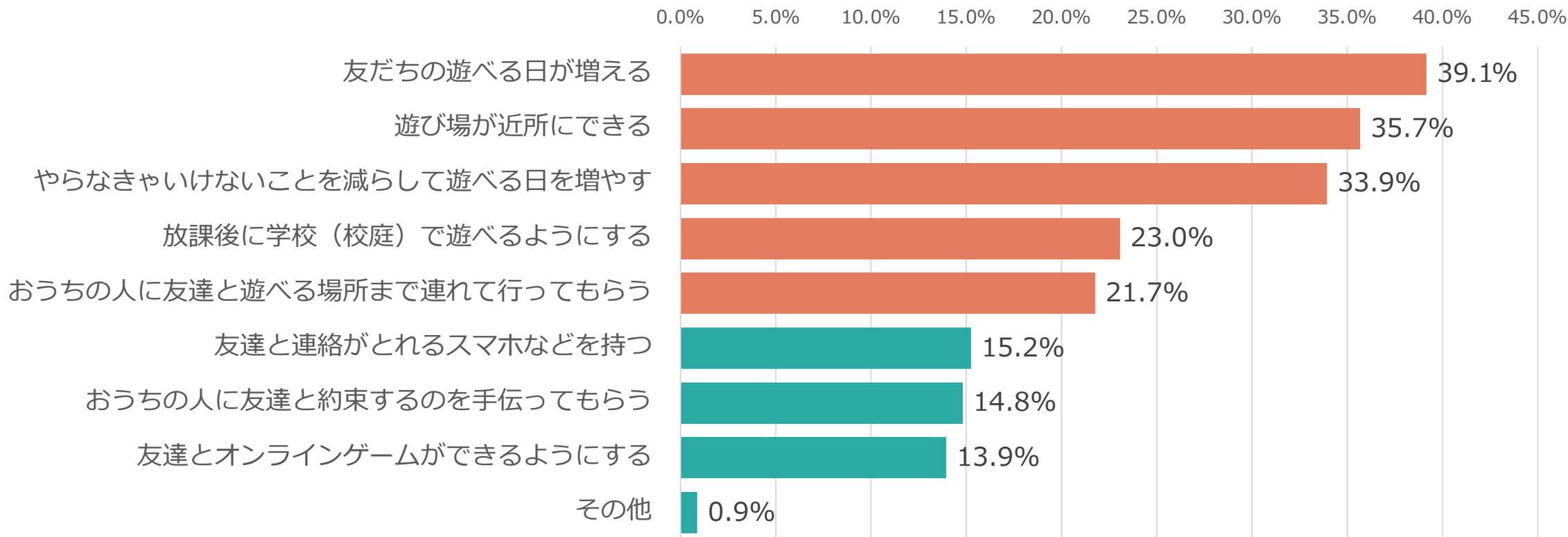
「どうして放課後に思うように友達と遊べないのか」という問いに対しては「友達と予定が合わないから (48.7%)」がトップ、次いで「自分が習い事・塾・宿題で忙しいから (35.2%)」との回答が得られた。

どうして放課後に思っているように友達と遊べないと思いますか？(n=302)



「もっと友達と遊べるようになるには、どうなるといいか」という問いに対しては、「友だちの遊べる日が増える (39.1%)」がトップ、次いで「遊び場が近所にできる (35.7%)」との回答が得られた。

もっと友達と遊べるようになるには、どうなるといいと思いますか？ (n=230)



小学生と保護者へのインタビューで放課後に思うように遊べない理由を聞くと、時間、仲間、空間の「3つ間」に課題があることが伺えた。

時間がない

もっと遊ぶ時間がほしい。毎日学校が5時間で終わって早く帰れたらいいのに。
（兵庫県5年生）

習い事や宿題で時間がないから遊べない。宿題がまあまあ多い。宿題が少なくなったらいいなと思う。（京都府4年生）

学校が終わった後、友達はみんな教室に残って先生と話しているのが羨ましい。自分は習い事があって急いで帰らないと間に合わない。時間があるといいなと思う。
（神奈川県3年生）

仲間がない

学童に友達がいるといいなと思う。元々はいたけど、やめちゃったから寂しい。
（神奈川県4年生）

友達の塾が6年生になって増えて、遊べないことが増えた。（東京都6年生）

友達と予定が合わなくて遊べない時がある。友達の習い事が多かったり、友達が遊べる日でも自分が学童だったりする。
（東京都3年生）

4年生になって友達が受験や宿題で忙しくて遊べなくなった。3年生の時は友達と約束して遊んでいた。（神奈川県4年生）

自分も友達も習い事があって予定が合わないことも多い。（兵庫県5年生）

空間がない

公園が近くにない（兵庫県5年生、大阪府1年生）

公園はあるけど子どもが遊べるように整備されていなくて、危なくて遊べない。
（宮城県4年生保護者）

子どもの遊び場がとにかく少ない。マンションの公開空地の小さい公園が1箇所だけ、遊具もない。（京都府1・4年生保護者）

学童がもうちょっと広がったらいいと思う。人数が多いとぎゅうぎゅうでうるさい。
（大阪府1年生）

「空間がない」課題は、物理的な場所があっても、ルールや人・環境による制約のため思うように遊べない場合があることも伺えた。

空間がない（遊び場のルールや人・環境による制約のため、思うように遊べない）

- 学童は楽しくない。先生にダメって言われる。あばれたらダメ、しゃべったらダメ、外にも行けない。先生がやさしい人になってほしい。（兵庫県3年生）
- ドッジボールを楽しみに児童館に行っていたけど、職員さんにドッジボールを禁止されてから行かなくなった。職員さんがダメダメということがよくある。（長野県2年生保護者）
- 友達と遊びに行きたいところが校区外だから行ってはいけない学校のルール。校区外も友達同士で行っていいようにしてほしい。（兵庫県5年生）
- 校庭開放はあるが、一度家に帰ってから遊びに行くルール。家と学校が遠いから遊びに行かない。（兵庫県5年生保護者、長野県2年生保護者）
- 共働きが多く、親同士の遠慮もあってお互いの家で遊ぶのは減っている。（北海道1・3・5年生保護者）
- 以前、近隣からクレームがあり、学童の子たちが公園や外に出ることを控えている。（神奈川県2年生保護者）
- 学童の支援員不足で目の前の公園にも行けない。（神奈川県2年生保護者）
- 公園で壁あてができれば1人でも遊べていいなと思う。友達がいなくてキャッチボールができない。（東京都6年生）

子どもの声 | Q.放課後が「こうだったらいいな」を教えてください。

自由に遊びたい。
(神奈川県4年生、
兵庫県1年生)

学校が疲れる。放
課後は、おやつを
食べて、ゆっくりし
たい。
(長野県2年生)

先生抜きで、友達
と一緒に学校で
遊びたい。
(兵庫県3年生)

習い事に電車で
一人で通っている。
一緒に行ける友
達がいるといいな。
(神奈川県4年
生)

親ともっと話した
い、もっと遊びた
い。(神奈川県6
年生)

塾が早く始まって
早く終わるといい
と思う。寝るのが
遅くなってしまうし、
おなかも空く。
(東京都6年生)

学童にもっとたく
さん漫画があると
いいな。すべり台
やブランコもある
といい。
(神奈川県4年
生)

保護者の声 | Q.お子さんの放課後についてどう感じていますか？ (ネガティブ)

学童に通っている子といない子が一緒に遊べない。学年が上がるごとに仲いい子が減っていくのが不安。(神奈川県2年生保護者)

親がいない間、ずっとゲームばかりなのも良くないので、習い事や塾に行かせている。そういう子が多い。(京都府4年生保護者)

毎日家で一人で過ごしている。まだ心配だから一人では出かけないルールにしている。大人のいない家にも上がらないルールなので、友達とも遊ばない。(長野県2年生保護者)

学童の支援員さんが足りなくて大変そう。(神奈川県2年生保護者)

子ども同士やひとりで安全に過ごせるかが気になる。見守りがあるといいなと思う。(兵庫県3年生保護者)

学童は定員の問題で3年生までしか通えない。毎日祖父母に頼ってなんとかかなっている。(兵庫県5年生保護者)

学童の費用が高く負担が大きい。何度もやめようか迷ったが夏休みは不安でまだ続けている。(神奈川県4年生保護者)

保護者の声 | Q.お子さんの放課後についてどう感じていますか？ (ポジティブ)

東京23区や大阪市など都市部においては、ポジティブな声が比較的多く聞かれた。

毎日お迎えが遅くて
申し訳ない気持ちも
あるけど、イキイキ
(放課後事業)で楽し
そうに過ごしてい
るからとても助かっ
ている。(大阪府1
年生保護者)

現状、子ども自身が
楽しそうだし、すまい
るスクール(放課後
事業)も公園も整っ
ていて課題は感じて
いない。(東京都3
年生保護者)

公園・学校の校庭・
区民広場など環境
も充実しているし、
満足している(東京
都6年生保護者)

近くにグラウンドも
あり、地方より東京
の方が遊ぶ場所
には恵まれていると思
う。(東京都6年生
保護者)

子どもたちの現状 | Q.放課後に何をして過ごしていますか？

毎日学童に通う

だいたい毎日学童に来ている。同じ学年の友達がいなくて、妹(小2)の友達とジェンガをしたり、宿題をしたり、友達に手紙を書いたり、工作したり、室内でなわとびや鬼ごっこ。ジェンガは人気だから早い者勝ちで使えない時がある。いつも取り合いになってる。レジンには月に1回だけしか型を使えない。やりたい人が多いから早い者勝ちで、一度やったらしばらくできない。たまに、学童に行きたくない日は家に帰ってひとりでタブレットを見てる。(神奈川県4年生)

毎日イキイキ(放課後事業)に行っている。絵を描いて、それを切って友達とお家ごっこをして遊ぶ。時々、工作もする。先生が教えてくれる。たまに外で遊ぶこともあるけど、外で遊んでいい時間は限られている。人数が少ないときは室内でボールで遊ぶこともある。19時にママがお迎えに来る。(大阪府1年生)

毎日、学童に行っている。前はブロック、けん玉、友達とUNOやゲーム、将棋をすることもあった。17時に一人帰りすることが多い。家に帰ってきて、ご飯の時間までゲームしている。マイクラ、スイッチ。外で遊ぶことはあまりない。(京都府1年生)

子どもたちの現状 | Q.放課後に何をして過ごしていますか？

学童 + 習い事

お父さんが仕事で家にいない日は、すまいるスクール(放課後事業)に通っている。週1~3日程度、18時半のお迎えまでいる。友達と遊ぶために早く帰る日は16:00頃にスマイルを出る。友達と一緒に帰って遊ぶことが多い。17時には家に帰る。習い事は金曜:ダンス、土曜:合唱、日曜:ピアノ、2週に1回程度でチェロ(東京都3年生)

月曜は毎週、水曜はたまにボート(民設の放課後の居場所)に来る。漫画、Youtubeチャンネルに動画アップ、カードゲーム、以前は実験をよくやっていた(ペットボトルで船を作って海に浮かべて人が乗る、風が強くて失敗した)、楽しかった。水・土は剣道、日曜は野球、子供会の会長会もある。以前は毎日ギチギチに予定が入っていた。今は少し余裕がある。(神奈川県6年生)

月・水はボート(民設の放課後の居場所)に来る。雨の日は缶バッチ、レゴ・アイロンビーズ、外で鬼ごっこ、木の椅子づくり、夏休みはスイカ割り、川探検。本物のお店屋さんを企画してやったのも楽しかった。実験もたくさんやっていた。友達がいるし、いろいろな人と遊べる。片付けとかルールを守れば何をしてもいい、自由。火木金は学童(公設)に行ってから習い事に行く。ピアノ(木)、オーケストラ(金・日)、剣道(土)(神奈川県4年生)

学童は行く日と行かない日がある。行きたくない日は友達と遊びたい時、そういう時は行かない。習い事は、そろばん、習字、英語、サッカー。友達と遊ぶ時は家の前でサッカー、鬼ごっこ。友達の家でゲーム(兵庫県2年生)

子どもたちの現状 | Q.放課後に何をして過ごしていますか？

塾・習い事中心

習い事は習字、ピアノ、そろばん、サッカー、英語。英語だけ楽しくない、他は楽しい。週1日だけ習い事がない日がある。友達と遊ぶのは週0~1回。学校から直接習字に行って帰る。他は家に帰ってからおじいちゃんに送ってもらう。(兵庫県5年生)

一度家に帰っておやつを食べて習い事に行く(月曜:ピアノ+吹奏楽、火曜:バレエ、水曜:英語、木曜・金曜:吹奏楽、土曜:バレエ+ボルダリング)※吹奏楽は部活。習い事の後にはテレビを見てる。英語とボルダリングが好き(先生が好き)(北海道5年生)

月水金は塾。帰って休憩した後、電車で17時に塾へ。月19時まで、水金は21時まで。塾には学校の仲の良い友達がいる、友達と話せるので少し楽しい。1科目終わったら10分休憩があり、その時間に話している。
火曜と木曜は帰宅後すぐに区民広場・公園・学校の校庭で遊ぶ。区民広場では持ち込んだゲーム機や、広場のおもちゃで遊ぶ。学校から帰る前にどこで何して遊ぶかを約束する。同じ学年の仲良し10人くらいで一緒に遊んでいる。(東京都6年生)

月・水は学校から帰って、おやつ食べて塾17-19時。塾は楽しくない。
火曜と土曜はそろばん、日曜は月に一回そろばんの特訓。(そろばんは好き?→普通)
木曜は何もないから、家でゆっくり、おやつ食べて宿題やってテレビかゲーム。友達と遊ぶこともある。友達の家でゲームやトランプ。
金曜は部活、陸上800m(Q.部活は楽しい?→[首を横に振りながら]疲れる。)(京都府4年生)

火・木は、塾。帰っておやつを食べてから20時半まで塾。塾は楽しい、知らないことを知れて面白い。塾で友達と話したり、帰りは友達と帰ったりするのも楽しい。月・水・金は、学校が終わったら友達と遊ぶ。18時頃帰宅して塾の宿題。
土日祝は、所属している野球チームで野球をしている。(東京都6年生)

調査結果④-3 (インタビュー調査より)

子どもたちの現状 | Q.放課後に何をして過ごしていますか？

自宅でひとりで過ごす

家で過ごすことが多い。進研ゼミが終わったらゲーム。友達とオンラインでボイスチャットで遊ぶ。(神奈川県6年生)

学校から帰って、おやつを食べて、ひとりでゲームする。マイクラが好き。
学校が疲れる。放課後は、おやつを食べて、ゆっくりしたい。(長野県2年生)

子どもの声を聴き、放課後の環境やルールを見直すきっかけに

今回の調査を通して、小学生の「遊び」を取り巻く現状や課題が改めて浮き彫りになりました。

放課後NPOアフタースクール代表理事の平岩国泰は、調査結果について次のように述べています。

“今回の調査から、現在の小学生がいかに『自由』の少ない放課後の時間を過ごしているかが明らかになりました。子ども自身の意思で過ごし方を決められる余白が少ないことは、子どものウェルビーイングにも影響し、現代の子どもを取り巻く様々な問題の深刻化につながっていくことを懸念しています。

こども基本法が施行され、子どもの意見表明や参加する権利の重要性が叫ばれるなか、「もっと友達と遊びたい」という子どもの願いが叶わない現状を、私たち大人（社会）はきちんと受け止め、どうしたらその願いが叶うのかについて真剣に向き合っていく必要があります。

子どもの遊び場が、子ども自身が行きたい時に行けて、友達と一緒にやりたいことができる場であるためには、家庭環境や学年、発達特性等によらず、どんな子も受け入れられる放課後の環境整備が行政により推進されることが必要です。また、現場においては多様な個性やニーズに対して、個別性を尊重できる工夫も大切です。

今年に入り「学童保育の待機児童」が社会課題として注目を集めるようになりましたが、まだまだ「大人が働くために」の議論にとどまっています。「子どもたちの願いを叶えるために、どんな放課後が必要か？」について、社会全体で考えていきたいと思います。

進化の起点となるのは、「子どもの声」です。この調査結果が、様々な立場で子どもに関わる方々にとって、「これは本当に子ども目線になっているか？」と身近なルールや環境を問い直し、子どもの声を聴いて、その願いの実現に向けた取り組みや子どもとの対話を始めるきっかけになればと強く願っています。”